

ハートメイドな、
ハンドメイドと。

素朴な形と優しい手触り。どこか懐かしさも感じる「ダーラヘスト」※。スウェーデン中部のダーラナ地方を発祥とするこの民芸品は、「幸せを呼ぶ馬」と言われます。

いまや世界中で愛されるこの馬が誕生したのは、今から400年ほど前のこと。木の仕事に従事する男たちが、ナイフ一本で余った木切れを削って作ったのが始まりと言われています。家族と離れ、森の奥深くに分け入って働く彼らは、夜、火を囲んで、家で待つ愛しい子どもたちの笑顔を思い浮かべながら、木を削りました。家族に会えない時間が、愛らしいその馬を生み出したのです。ダーラヘストは、お父さんの愛情の形でした。

子どもを想う親の気持ちに、国の隔たりはありません。日本にも、会津地方の「赤べこ」をはじめとして、子どもの健やかな成長への願いを込めた郷土玩具が各地に見られます。どれも身近な素材を使い、手で作られた素朴な形と愛らしいおもちゃばかり。ダーラヘストに親近感を覚えるのは、そのせいなのかもしれません。

スウェーデンでは親から子へ、子からまたその子へと、ダーラヘストとともに、家族を想う気持ちが大切に受け継がれています。

SWEDEN × JAPAN
響きあうココロ。

MADE
by HEART

ストーリーと 生きていく。

「これは、母が愛用していた手編みのブランケット。母がまだ小さな頃におばあちゃんが編んでくれたの」。愛おしそうにその網目を指先でなぞりながら話してくれたスウェーデン女性。この国では、ものを長く使い続けるだけでなく、ものにまつわる歴史やストーリーを重んじます。

それは、蚤の市やセカンドハンドでの出会いでも同じこと。長く使い続けられてきたことに敬意を払い、たどってきた道のりに胸ときめかせるのです。それがいつ生まれ、誰のもとで、どんな風に時を重ねてきたのか...とても詳しく語ってくれることに、驚かされます。歴史やストーリーも大切に受け継がれているのです。

日本では、最たるものが着物。広げるたびに記憶の扉が開かれ、大切な人の横顔や特別な日の風景が甦ります。たとえ端切れとなったとしても、そこに刻まれた思い出は消えることなく、心を温め続けてくれます。

大切にものを使い続けることで新たな物語を紡ぎ、次の世代につないでいく。スウェーデンの豊かさは、そんなところにこそあるのかもしれない。

MADE by HEART

SWEDEN × JAPAN
響きあうココロ。

想いを刻める家。

スウェーデンでは、築100年を超える家に住みたいという人が少なくありません。いくつもの時代をくぐり抜け、人の想いや歴史が刻まれた建物にこそ、得難い価値があると考えられているのです。それは、頑丈で快適な家が当たり前に建てられ、何代にもわたって住み継がれてきた証でもあります。

多くの人が、そうした家を自らの手で、時間をかけて、より居心地の良い空間にすることを楽しんでいきます。そしてその家を、再び誰かに手渡すことに喜びを感じるといいます。

スウェーデンハウスもまた、世代を超えて住み継いでいける家、時とともに価値を深めていける家でありたいと考えています。一つとして同じダーラヘストがないように、スウェーデンハウスも一棟一棟その表情が違います。そこにそれぞれのご家族の想いが刻まれ、「我が家」の物語が紡がれ続けているから。

時を重ねるほどに、そのご家族らしい場所になっていくこと。私たちスウェーデンハウスが大切にしている、家づくりへの想いです。

SWEDEN × JAPAN
響きあうココロ。

MADE by HEART